

# はじまった、新しいまちづくり

「平成の合併」により、全国で572の新しい市町村が誕生しました。これらの市町村では、住民の方々に「合併してよみます。住民の自主的な活動、一体感を醸成するイベント、防災を視野に入れた情報網の整備、少子高齢化への対策、越前町、岐阜県高山市、鳥取県湯梨浜町を紹介します。

## 住民の一人ひとりが新しいまちづくりへ参加

### 福井県

# 南越前町



そうくん

まちづくりは住民主体が重要。南越前町では町民の活動を応援しているよ。

南越前町は、福井県のほぼ中央に位置し、山・海・里と環境の異なる地域が「美しい自然」と「多様な歴史文化遺産」という共通点で結ばれた自然豊かな町です。眼下に日本海が広がるスキー場、海水浴場、3つの温泉施設、そして新鮮な魚介類やそばなどの豊富な特産物。町ではこれらを生かし、個性豊かで魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

### まちづくり交付金による住民主体のまちづくり

町では自治組織が自主的に行う活動に対して、「まちづくり交付金」を交付し、住民主体の自立したまちづくりを進めています。事業には、地域の祭などのレクリエーション事業や防災訓練の実施などの地域安全推進事業、緑化の推進などの環境美化事業、講演会などの文化事業、高齢者・障害者・子どもを対象とした福祉事業、情報誌の発行などのコミュニティの普及啓発事業、青少年の育成事業などがあります。



交付金で実現した花壇づくりによる美化運動

### 住民一人ひとりが行動をまちづくり大会を開催

これまでの「行政主導・住民参加」のまちづくりから「住民主体・行政支援」によるまちづくりを促進していくためには、住民一人ひとりが、「自ら学び、自ら考え、自ら活かせる」風土づくりを推進する必要があります。町では、まちづくり活動に取り組んでいる人たちが一堂に会し、さらに住みよさを実感できる豊かなふるさとづくりの方策を学び、活動の一層の発展に資することを目的として「まちづくり大会」を開催しています。



住民の多くが参加した「まちづくり大会」

かった」と実感していただけるよう、さまざまな支援策などを活用して合併後のまちづくりなどに積極的に取り組んでそして地域の魅力再発見など、それぞれの自治体で地域の実情に合わせた取組が行われています。今回は、福井県南

### データ

- 合併期日：平成17年1月1日
- 人口：12,274人（平成17年10月1日現在）
- 面積：343.84平方キロメートル
- 合併関係市町村数：2町1村

### 合併の背景

福井県は、明治、昭和の大合併を経て、35市町村となり全国で最も市町村数の少ない県となりましたが、地方分権の進展、日常生活圏の広域化、少子・高齢化など市町村を取り巻く状況が厳しさを増し、南条郡の3町村（旧南条町、旧今庄町、旧河野村）は行政と住民が一体となって今後の町村の在り方や将来像などについて活発な議論を展開し、合併を決定しました。



### CATVを活用したICT網を整備町の情報を支える大切な基盤

情報格差を是正するために、平成11年から平成17年にかけて旧南条町、旧今庄町、旧河野村と順次、ケーブルテレビ（CATV）のサービスを開始してきました。町村合併を経て、加入率94%の町営のCATV事業として、自主放送、テレビの再送信およびCATV電話、音声告知放送のサービスを行っています。平成18年からはCATVインターネットサービスも開始し、南越前町の情報格差の是正にはなくてはならないICT基盤となりました。



町営CATVは地域密着の情報を発信する

### 入所者と社会の交流を重視今庄老人保健施設

今庄老人保健施設は、平成7年に開設した入所定員30名、通所定員6名の施設です。小規模であることを生かし、入所者と通所者が日中の生活を共にし、交流する空間を設けることで、入所者の方が社会や地域とのつながりを感じられるような施設を目指しています。施設は旧今庄町の地域にありますが、合併後は、他の地域の方も短期入所や通所で利用されるようになり、交流が広がっています。



施設ではイベントなどを通じた交流も行われる

# 「平成の合併」で全国に新しい市町村が誕生しています はじまった、新しいまちづくり

地域の魅力を最大限に活用し  
国内外からの交流人口を増やす

岐阜県

## 高山市



しょうこちゃん

高山市は、「飛騨高山」の名前に甘えず、地域を活性化させる努力を怠りません！

高山市は日本のほぼ中央、岐阜県の北部に位置し、春秋の「高山祭」や古い町並みなどに代表される観光都市「飛騨高山」として年間450万人近くの観光客が訪れています。一昨年、フランスのミシュランが作成した日本の旅行ガイドブックで「必ず訪れるべき観光地」として三ツ星の評価を得たこともあり、日本の原風景を高山市に求める外国人が多く訪れ、平成19年の外国人宿泊者数は13万人を超えました。

地域振興特別予算の創設などで  
需要のある事業を柔軟に実施

高山市では合併後10年間、地域振興特別予算（年間予算約6～7億円）を確保し、合併した各地域の伝統文化継承、地域固有の事業などを実施しています。その枠の中で地域振興事業補助金交付制度を創設（総額約6,000万円）し、住民主体の地域づくりを支援。地域の要望に素早く柔軟に対応するために、町内会や各種団体が行う道路沿道修景や環境保全、地域づくりなどの事業に補助金を交付する制度です。こうした制度で住民と行政が協働して住みよい豊かな地域づくりを実践しています。



補助金を活用して地域の美化活動（花壇づくり）を行う住民

高地のトレーニングエリア  
フランス代表も合宿を実施

市の東南に位置する高根地域では、平成20年5月に文部科学省からナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設の指定を受けるなど、標高1,200mから2,200mの標高を生かし、高地トレーニングエリアを核とした地域づくりを行っています。中高生や実業団選手の利用をはじめ、フランス代表の中距離選手が世界陸上や北京オリンピックに向けての練習に利用するなど国際的な注目も浴びています。同地域は市内でも過疎・高齢化が著しく進んでおり、今後は、廃校施設も有効活用しながら交流人口増を図っていきます。



北京オリンピック直前にトレーニングをするフランス代表

データ

- 合併期日：平成17年2月1日
- 人口：96,231人（平成17年10月1日現在）
- 面積：2,177.67平方キロメートル
- 合併関係市町村数：1市2町7村

合併の背景

高山市は平成17年2月1日に近隣9町村を編入合併しました。人口は約3万人増え、約9万7,000人になり、市域は東西81キロ、南北55キロで、富山や長野、石川、福井の4県、10市町村に隣接。日本一広い市で、面積は東京都とほぼ同じ約2,178平方キロメートルに及びます。合併直後から旧町村すべてに地域審議会を設置するとともに、総合支所を置き、地域の振興を図っています。



ふるさと体験・飛騨高山  
(グリーンツーリズム)の推進

高山市は、合併に伴い従来の歴史的景観や伝統文化などの地域資源に加えて、雄大な山並みや清流、温泉、田園風景などの豊富な自然資源を持つようになりました。現在、それらの資源を活用した滞在型のグリーンツーリズムの構築を進めていますが、総務省・文部科学省・農林水産省が連携して取り組んでいる「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受け入れモデル地域の指定を受けるなど、幅広い年代が地域で農林業体験を楽しむ機会が得られるような施策を進めています。



小学生もグリーンツーリズムに参加。果樹園での農作業体験

日本一広い面積を持つ市を  
地域福祉バスなどの運行でカバー

合併して日本一広い市域を持つ高山市ならではの公共交通の取組があります。市街地では合併前からコミュニティバスを運行していましたが、合併に伴い、支所地域全体で地域福祉バスを無料運行し、スクールバスにも市民が乗れるようにし、高齢者など交通弱者が地域内を移動できるようにしました。また、市街地と支所地域間は自主運行バスと路線バスを活用してつなぎ、市域全体をコミュニティバス、自主運行バス、路線バス、地域福祉バスなどでネットワーク化しています。



地域福祉バスに乗り込む住民。バスは高齢者の重要な移動手段

# 「平成の合併」で全国に新しい市町村が誕生しています はじまった、新しいまちづくり

地域づくりの主役はあくまで住民  
町民の自主的な活動を行政が支援

鳥取県

## 湯梨浜町



地元の魅力は意外と知らないもの。湯梨浜町は地域を再発見しながらまちづくりをはじめたよ。

むうくん

湯梨浜町は、鳥取県のほぼ中央に位置し、東郷池を中心に海、川、山など自然豊かで風光明媚な地域です。湯梨浜という名前は、「全国でも珍しい池から湧き出る温泉、大地がはぐくむ特産二十世紀梨、日本海に広がる白い砂浜」という町の特色から名づけられました。また、ハワイとの姉妹都市提携にちなんだイベントも開催されています。

### 湯梨浜の誇り百選事業 住民の誇りを再発見

『湯梨浜の誇り百選』は、平成17年に湯梨浜町誕生1周年を記念して作成されたもので、町内の優れた地域資源をまとめて紹介する小冊子です。100件を超える地域資源の選定に当たっては町民を対象に公募を行いました。その分野は、観光地や特産品だけでなく、歴史や文化、郷土ゆかりの偉人など多岐にわたります。平成19年には第1回改訂を実施。住民の誇りが凝縮した町公式観光パンフレットとしても活用しており、旅館や土産店などで、100円で販売しています。



湯梨浜の魅力が詰まった百選のパンフ。ホームページでも紹介

### まちづくりの創造活動を行う 町民団体の自主活動を支援

町民にとって住みやすく、住み続けたい町になるためには、地域のことをよく知っている住民が主体となってまちづくりに積極的にかかわることが大切です。町では、町民が自主的・継続的に行う「まちづくりの創造活動」を応援。事業費5万円以上の事業に対し、事業費の2分の1以下で20万円を上限として助成（同一事業に対しては最高3年間まで）。本年度も、中華コスプレ大会や町民ミュージカル、ばあちゃんが創る特産品開発などユニークな活動に助成しました。



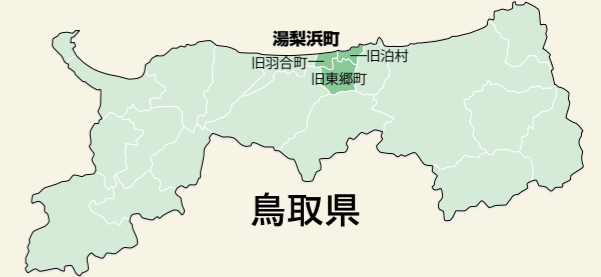
中国、韓国からチームを招待した「中華コスプレアジア大会」

### データ

- 合併期日：平成16年10月1日
- 人口：17,525人（平成17年10月1日現在）
- 面積：77.95平方キロメートル
- 合併関係市町村数：2町1村

### 合併の背景

鳥取県中部、東郷池の周囲に位置する羽合町・泊村・東郷町の3町村。これらの町村は地理的、歴史的に結びつきが強く、住民同士の交流が盛んで、従来から一体的な地域圏を形成してきました。地方分権の進展に伴い、きめ細やかなサービスと地域の一体的なまちづくり、行政サービスの向上などを目指し、合併についての研究を重ね、平成16年10月1日に湯梨浜町が誕生しました。



### 充実する子育て支援事業 地域の子育て力をアップ

湯梨浜町の子育て支援は、保育料の軽減などの経済的支援から妊婦・乳幼児の健康支援、乳幼児の発達支援など多岐に渡ります。中でも地域の子育て力を育成することが重要と位置づけ、赤ちゃんが交流する「赤ちゃん登校日」や、子どもや家族に対するコミュニケーションの大切さを学ぶ「母親・両親学級（えっぐクラブ）」を実施。子育ての不安を少しでも解消する取組を進めています。



赤ちゃん登校日では小学生が赤ちゃんに本の朗読も

### 防災無線の受信機を全戸設置 光ファイバーで地デジにも対応

合併前は各町村でシステムに違いがあり、戸別受信機のない世帯や屋外拡声機だけの集落もありました。合併時に情報の一元化を目指し、本庁舎で一括放送できるフルデジタル化による設備を整備し、録音機能を持つ戸別受信機を全戸に配置。防災行政無線を使用し、的確な情報周知を図っています。また、地デジ等に対応するため、光ファイバー網を整備するFTTH事業も施工中です。



本庁舎の放送設備では、行政情報を毎日放送している

市町村の合併の特例等に関する法律の期限（平成22年3月末）まで残り1年あまりになりました。全国では、現在も多くの市町村で合併に向けての議論が行われています。  
今一度、地域の将来を見据えて、  
**市町村・住民が一緒になって市町村合併の必要性について考えてみませんか。**